「松風（先生）の遊びの中に哲学を探そう」2005年5月号

目次（ごあいさつ）
（１）囲碁～小次郎三番勝負,将棋～名人戦
（２）昔の遊び
（３）哲学について
（紫陽花通信）

（ごあいさつ）

こんにちはみなさん松風です。大型連休はいかがでしたか。
松風は自分の仕事をしていました。学生の頃だと合宿というのがあって、どこか山の中にいってみんなで発表会をやったと思います。ああいうことでもたまにしたいものなのですが、そういう機会も最近はないので仕方ない、こちらで日程を決めて一気に片付けることを片付けようということになりました。
でもそれが終わってもまだやることがあるのですね。大型連休期間は多少の気分転換になったので、また気分も新たに仕事を再開できます。
この一月の間に国際情勢はどうなったでしょうか。どうにかなっているんでしょうね。
わが国ではたまに自分が嫌いだが世界平和を待望するという人もいますが、自分が憎い・自分が嫌いだという人が周囲にいると、決して人は平穏な気分にはなれないものです。
細かいことはさておき「ペイ・フォーワード」の心でもって日々を過ごしましょう。「良いことは2度、3度」とはニーチェが好んで引用していたギリシアの言葉で、ペイフォーワードが含意する他人への親切とは意味は違いますが、良かれの行為が楽しい思い出となるとなるようにしたいものです。（2005年5月9日）

（１）囲碁～小次郎三番勝負第1局,将棋～名人戦激闘続く

・小次郎くんと対局
推定15級の小次郎くんと指してみました。第1局、途中70目劣勢となるも逆転。25目半勝ち。（here）お互い気が遠くなるような広さの陣をつくっています。これではいけませんな。

・今月の読書　　「清成哲也の実戦に役立つ格言上達法」（ＮＨＫ出版）
画像ファイルをご覧いただいた方はお分かりでしょうが、松風は日夜短時間上達法がないかなあと思ってます。
「3目の真ん中」「アタリアタリはヘボ碁の見本」「ダメ場を地にするな」などの格言を実例を挙げて説明しているのですが、こころなしか、囲碁のほうが格言は理解しやすいように思いました。アタリや、ダメ場、3目などは出現率が高いからでしょう。
これに対して「玉の腹から銀を打て」などは、そんな場面はそれほどないですよ、という格言です。そして「居玉は避けよ」という格言があります。そう教えなければならないような初心者の方の場合ですと、避けたところで形勢が良くなるわけじゃあありません。
「玉を守れ」「玉を固めろ」「できれば両隅のどちらかに」くらいまで具体的でないと、将棋の場合使える格言にはならないような気がします。
松風独自の将棋格言としては「飛車と角は切れ」「手抜きから読め」「駒の損得勘定はするな」「裸玉寄せにくし（佐藤康光棋聖未公認）」などがありますが冗談ですので、決してこれらを覚えていてはいけません。いつもこのように考えていると負けます。

・将棋名人戦～迫力ある羽生挑戦者、強い受けで応じる森内名人
この号が出るころには名人戦第三局も終わっています。朝日オープン選手権は、羽生選手権者が山崎六段・ＮＨＫ杯を3対0で破って防衛しました。山崎六段は若手の強豪です。鋭い攻めが持ち味ですが、第2局の勝

ち将棋を逃したのが響いてしまったようです。渡辺竜王対山崎ＮＨＫ杯という対戦も見てみたいですね。
　名人戦は第1局から熱戦になりました。松風の好きな角換わり腰掛銀模様の将棋になりましたが、森内名人の強い手に対して羽生四冠の独特なバランス感覚を示す手が出て、勝負は白熱しました。羽生四冠の手はタイミングが絶妙です。一度出て行って交換した銀を再び自陣に打った手などは、手自体も好手なのでしょうが、そのタイミングが素晴らしく思われました。
　第2局は、森内名人の得意とする強い受けが出て名人がタイスコアに持ちこんだのですが、羽生四冠が敢えて名人の強い領域に踏み込んだかのような将棋でした。森内名人の35同銀、34銀に対しての26飛車などに森内流の特徴がよく出ていると思います。相手の攻めを受けとめて優位を築く強い受けが名人の特徴といってもいいでしょう。
　それでも羽生四冠２４同歩の瞬間は、本局のハイライトでした。名人の受けが決まったように見えるところで、歩得を主張して手番を渡すところは迫力がありました。森内名人の強さが出た第2局を受けて、今後の名人戦から目が離せません。いつも同じことを言ってますか？。

ま、とにかく、また次号でお会いしましょう。

（２）昔の遊び・第1回　エス陣取り

　さて今月から気分も新たに、松風の子供時代の遊び体験を書いていきましょう。私が子供の頃はまだ、テレビゲームは出始めのころでしたし、それほどおもちゃを買ってくれるような環境でもないために、外で遊ぶことが多かったと思います。
　今回紹介するのはエス陣取り。実はそれほどたくさんこれをやったわけではありません。エス陣取りや陣取りはどうしても対人のもみ合いになり、ラフプレーも飛び出しがちになるため、子供ながらにあまり頻繁にやるもんではないという意識が働いていたようです。松風自身小学校時代に、別の学校の区域で野球をしたことがありますが、真面目に、負けたら殺されるんではないかというくらい緊迫した気持ちになったものです。
　今回の本題、エス陣取りとは？。下の図を見ていただきましょう。

　　○
○Ｓ○
　　○

　エス字が陣地で、○は安全地帯です。人間がＳ字の中に入るんですから、狭くても畳3畳くらいの大きさを確保するのが通例です。そしてＳの空いたところが出入り口。お分かりですか？。そのＳ字陣地の奥にゴール地帯を設定します。相手陣地のゴールを踏めば勝ちになります。
　安全地帯と陣地内以外では、参加者は片足跳びで移動します。両足をついたらプレイヤーはアウトです。
　さて初期状態では、チームは全員自陣にいるところから始まります。敵陣へ到達するのには２つの道があります。北半球経由と南半球経由。ゴールが1つ、争点になる道が２つですので、感覚的には１チーム4～5人いるとこのゲームは面白くなりそうです。攻めに3人守りに2人という感じで。

　・ポイントになる極地安全地帯での駆け引き
　エス陣取りの面白い点、また松風が得意にしていたのが、この駆け引きです。極地安全地帯からの動きによって攻防のバランスが変わります。この判断が勝負に少なからぬ影響を与えます。相手陣が空になればもちろん突入しますし、小人数で自陣に攻めてくれば、相手方の攻撃力を削ぎに行きます。
　また極地安全地帯で、敵と一緒に一休みする場面があります。相手は大抵の場合こちらの陣地へ向かいますが、そのときそのプレイヤーはわたしに背を向けるので、ちょっと押すとバランスを崩します。
　そういうわけで戦略･戦術上の要衝と言えるでしょう。しかし、勝負自体は各自の頑張りにかかっています。どんなゲームもそうです。以前も述べたように身体性です。

（３）哲学について「最小であり、最大であるもの」

2回続けて松風があまり好まない逆説的表現を取り上げます。逆説というのは、たいてい熟考したい事柄から言語操作を外すために用います。これは言語操作から始めて、対象そのものを浮かび上がらせる 1つの方法です。私の理論に慣れていれば分かると思いますが、矛盾というのは持続する対象から出た触手について、これとあれは同時に成立しない、ということを述べています。言いかえれば、触手の性質それ自身を現しているのです。すなわち、触手が非Ａに向かって伸び、かつＡの内側に向かって伸びるということはできません。そしてこの触手は、対象そのものではないということもまた明らかなことです。したがってよく考えられた逆説的表現は、対象そのものを熟考する機会を与えてくれます。

本題に戻り、最小であり最大であるものは、この世界における各々の存在です。以前インド哲学について触れましたが、アートマンと呼ばれるものも、そのように表現されます。
人が存在を色調も鮮やかに、強烈に感じるとき、それはその人にとって最大の大きさを持ちます。ここでは分かりやすく、自己とします。自己意識は自らにとって最大の大きさとなります。こうした内的な一体性はしかし、そのゆえにこの世界との関係において、最小のものとなります。
つまり内的な一体感は、次の段階で宇宙の一体的な大きさを実感することとなります。自己を最大に捉え得たときに、自分が最小のものであることも実感されるということです。
或いは逆の方向から、客観的には最小のものであるかに見える私たちの内的な自己意識も、最大のものでありうるというふうに見ることもできます。
さらに言い換えますと、最小のもの足り得たときに、人は最も尊いものを自己のうちに見ると言えるでしょう。
福音書にも似た表現が存在します。「天国は子供のような人のものである」（マタイ他）。

今月はここまで。また次回お会いしましょう。今回書いたところは1999年版では「行為・持続」「外部論理」が対応箇所になります。ご一読ください。（5月14日）

（紫陽花通信）

1.札幌市近郊イベント紹介

松風がボランティア活動をはじめてほんの少し。活動を通じて知り合った団体さんをご紹介します。
会員制の民間福祉事業所「goodness（グッドネス）」さんでは、6月に入って不登校をテーマにしたワークショップや集いを開催されます。

6/5：ワークショップ@社会福祉総合センター(大通西19丁目)3F第2会議室13:00～15:00

6/16（木）「不登校の親の集い」@社会福祉総合センター(大通西19丁目)3F第2会議室

6/25（土）12:00-13:30　札幌市内の小学校の体育館にて「子どもたちと遊ぶイベント」

グッドネスさんのホームページは
http://goodness.madeit.net/ です。開催時間など詳細は、こちらにお問い合わせください。

2.紫陽花通信では、1.のようなイベント紹介や、団体紹介、ホームページ紹介のご依頼を受け付けています。月刊ですので、常時募集ボランティアのこととか、ホームページ紹介とか、メルマガの相互紹介などがおすすめです。

もちろん翌月のイベント紹介でも構いません。

3.代表見聞録
「代表」「松風」「二段」などの名前を使うわたくし松風ですが、普段は高山です。しかしそれに満足せず「会長」にもなるつもりです。私の言うことはお分かりですね？。

札幌トラブルファンク協会会長です(STFA)。このあいだアマゾンＵＳで検索したら、もう一枚しか入手できなくなっていました。情けない世の中です。「自分が誰だか分からないなら、お前の財産俺にくれ！」と、本場ワシントンＤＣのリズムにのって叫びましょう。

時には楽しく、時にはまじめに。では失礼！。（5月16日）

いかがでしたか。
それではまた次号でお会いしましょう。

メールマガジンのバックナンバー・登録・解除は
here
拙著のご注文、原稿執筆を含むお問い合わせ
info@lc-lih.com

発行者　高山大祐

本著作権者（高山大祐）は掲載内容の無断転載、編集、改変を認めていません。
copyright(c)2005- Daisuke Takayama/lc-lih.com All rights reserved.